

開催日時：2002年9月22日（日） 9：30～5：30

場 所：丹生ダム建設予定地付近、余呉町山村開発センター

参加者数：琵琶湖部会委員 8 名 河川管理者 19 名 その他の委員 4 名、一般同行者 4 名

1 現地調査概要

現地視察

丹生ダム建設予定地周辺の、妙理谷工区、奥川並、断層トレンチ、調査坑などを視察した。視察ポイントでは、河川管理者（水資源開発公団 丹生ダム建設所）より、工事による濁水をおさえるための対策、植生の分布、環境保全への取り組み、活断層の調査状況等について説明が行われた。

情報提供

昼食会場となった奥川並では、以下の方々から説明をお伺いした。

- ・ 京都市自然史研究所 西村氏より、地質学の専門家としての立場から、丹生ダム建設地周辺の地質の構造や活断層の分布等について説明が行われた。
- ・ 森林総合研究所 関西支所 奥氏より、「河畔林の景観と河川のレクリエーション利用」として、河川整備や森林環境の人為的改変が人々のレクリエーション活動に及ぼす影響等についての説明が行われた。
- ・ 南浜漁業協同組合 鳥塚氏より、スキー場開発を原因とする高時川の濁水の現状や濁水が琵琶湖北湖の水質に及ぼす影響についても認識する必要がある等の現状説明があった。

参加者による懇談会

視察終了後、説明者を含め、余呉町山村開発センターにて参加者による懇談会が行われた。

主な意見と質問

- ・ 活断層があるところにダムを作ると、どんな危険性が考えられるか。
- ・ この地域の活断層は数千年～数万年は動いてない。（河川管理者）
- ・ 深いダムは地震を誘発させることがあるのでは。
- ・ ダムで水没後した後も良い景観をつくることは可能なのか。
- ・ 今回の視察は、ダムを作るべきかどうかを判断するための材料にはならなかった。
- ・ これからは、各地のダムが持つ機能を流域全体で相互に分ち合うという考え方が重要である。
- ・ 姉川の瀬切れにより、アユの産卵場に水がない状況である。上流の頭首工から水が農地に取り込まれているのが原因である。
- ・ ダム湖によって水質が悪化するなど、パンフレットには、良い事も悪いことも含めて書き、流域住民と情報交換すべきだ。
- ・ ダムにより、必ずしも河川の水質が悪化するとも言えない。対策も考えている。（河川管理者）

以上

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。詳しい内容については結果概要をご覧ください。